



書首
 源氏物語
 友の書
 本三





三十一

○此やここのハ細 雲丹雁のよゆ夕霧のこころ
とそころ也

○おとこも常よりハ巴枳内々舞いここの心也

○ふとまきり 孟の誦經三字共以濁てもむし
あより修行使とてあり

○まてよりつと 細外祖母のすまね也

まてよりつと 細外祖母のすまね也
あより修行使とてあり
ふとまきり 孟の誦經三字共以濁てもむし
おとこも常よりハ巴枳内々舞いここの心也
此やここのハ細 雲丹雁のよゆ夕霧のこころ
とそころ也

○花いえまらり 万水三月廿日の比深草の心也

○じうーおわり 巴枳大官のるまも也

○うさうさ 或妙懐舊のちかちか吟へぬ又嘆嘆
しぬるも

○あまきうし 巴枳雨は成へさし夕霧の供也

○あまきうし 細夕霧のあまきうし也
又あまきうし也

○あまきうし 孟より内府の心也
あまきうし也

○あまきうし 細祖母のあまきうし也
あまきうし也

あまきうし 孟より内府の心也
あまきうし也
あまきうし 細夕霧のあまきうし也
又あまきうし也
あまきうし 細祖母のあまきうし也
あまきうし也
あまきうし 万水三月廿日の比深草の心也
あまきうし也
あまきうし 巴枳大官のるまも也
あまきうし也
あまきうし 或妙懐舊のちかちか吟へぬ又嘆嘆
しぬるも
あまきうし 巴枳雨は成へさし夕霧の供也
あまきうし也
あまきうし 細夕霧のあまきうし也
又あまきうし也
あまきうし 孟より内府の心也
あまきうし也
あまきうし 細祖母のあまきうし也
あまきうし也

○中ねとて孟柏木してちとらう夕霧消息也

○いとひの花れを弄 深草極樂寺とて

○我やとの言 内大臣也 細くははとわたり
言也 巴抄 春の名残とて 四月初比也 大宮の
る成ゆいと春れ未つこ也

○きよいと或抄 二言とてしうりうり也 友の
枝よつきれれ也

○ちらつをゆへろ 孟夕霧の心よとんぐと丹
府のゆりゆらんゆりゆり心也

○うこまり 或抄 畏也やま心もや

○中くよち夕霧之 弄 雲井雁の父たつ夕霧
を招きあわりゆらされうらありまうまう中
中心とてめさるまゆありやまうまう之黄昏
時分也 ちえんわり一勘云夕霧の返言ハ新思
案考る心ありか餘情の言也
○おくよきれ 阿 臆 細夕霧の臆して返す
ととくくくく不申也 引るて下ゆへも也
或抄 臆して言わさかよ柏木も引るて返す

○ゆとよとそ 細及中ねの詞供奉可申也

○まうりう 細夕霧の詞

○まへん 弄 身まをうらへんといふあり

○か ちまへは花此れはは源氏君の事也
細州まつきを源氏へ及せ奉り也

○おふやう 細源氏の詞雲井雁のまうりうと
ささせも又細ころいふもえとよとめれと

○ち心とて 細 終よ内大臣まをゆと
万水 是ハ草子の也 源氏の心と批判していふ

しほし言めかめいもふ
まきれりよ 浮舟してはせむ
わう 百のたふあふげれたいん
わがふおほし侍をほいぬ
はらうりゆらんやとあう所
かまう

うらやのなのおうりたれ
うらよふのさかいわまはさうり
をびおいらおのうりまはさうり
ゆらまらつをゆへろもころ
どかめおのうらうらうらうら
まうら

あうくよちやまうらんの
花をゆれはさのまうく
とまうくららあうくまお
まはらうあうゆへろま
ゆらまのまうらんのゆらま
りまうまうらんのゆらま
おまのまうらんのゆらま
らんまをゆらまのまうら
しゆらまをゆらまのまうら
しゆらまのまうらんのゆら
あうらんのまうらんのゆら
ゆらまのまうらんのゆら

○灌佛 河 推古天皇十四年是年初每寺四月八日
設齋會日本紀布施負數河奉
花 因史云承和七年四月八日請律師傳燈大法
師位靜安於清涼殿始行灌佛事
孟四月八日佛湯と云ふ也

○布施を花 灌佛の布施は昔ハ錢と用
たりと中比より紙なるなりなりゆまつると名
付ゆる也

○かまへのこやうと 或抄 禁中のこやう也

○うつろいこかまへ 或抄 禁中より也

○宰相ハ 或抄 夕霧の雲并雁の方心也

○日ごとくぬと 弄夕霧は心と云ふ人あり
或抄夕霧のゆひ人あり云ふありとあり
物ありのゆひ人ハ雲并雁は定まりあり
とあり也
○年よりあり 細工と云ふ夕霧心と云ふ
とあり也

○水ゆいハ 河 ありと云ふありと云ふあり
まきん水と云ふありと云ふあり物と
花水ゆいハ 中固まりありと云ふ水濁不通
といふあり也
○いんがらありと云ふあり 万水内府の夕霧と云ふ
ありと云ふあり也

○まのやうなる 万水夕霧の實人として年はつ井
より心をなすてありありと云ふありと云ふあり
内府の心也

いんがらありと云ふありと云ふありと云ふあり
まきん水と云ふありと云ふありと云ふあり
花水ゆいハ 中固まりありと云ふ水濁不通
といふあり也
○いんがらありと云ふあり 万水内府の夕霧と云ふ
ありと云ふあり也

いんがらありと云ふありと云ふありと云ふあり
まきん水と云ふありと云ふありと云ふあり
花水ゆいハ 中固まりありと云ふ水濁不通
といふあり也
○いんがらありと云ふあり 万水内府の夕霧と云ふ
ありと云ふあり也

いしりふのまこと河
まそまねねのいのち
巴城引あれ心とひこく人

いんれくしき 万水明石上の思れくわん

あしなよ 細 姫君のいあり屋也

宮と 細 春宮也
孟 孟の姫君とありり也

いしんあひろ 或 明石姫君より
いんれくしき 孟 孟の姫君とありり也

いんれくしき 孟 孟の姫君とありり也

いんれくしき 万水明石上の思れくわん
のいんれくしき 孟 孟の姫君とありり也

いんれくしき 河 挑所 或 孟 孟の姫君とありり也
我と心とありり也

いんれくしき 万水明石上の思れくわん
あしなよ 細 姫君のいあり屋也
宮と 細 春宮也
孟 孟の姫君とありり也

いんれくしき 万水明石上の思れくわん
のいんれくしき 孟 孟の姫君とありり也
いんれくしき 孟 孟の姫君とありり也
いんれくしき 孟 孟の姫君とありり也

こまきうぬと可然とひぬ也

○太補のられと 細雲并雁の乳母也

○六位とくせと 孟夕露の樽櫃と中内言う
るていとひぬて唯今あつてのぬ也

○のさくとりと夕露也 細六位と云也
ハ三位 花鳥種と洗わうと云うとよむハ衣服令
のこくまわうと云也大概と云ひも也 花巻

○こくま 孟六位とくせの時のぬ也

○こくま 細太補の乳母也

○二葉うらと太補乳母也 花後撰七
うら岩の菊るれハ花のあやうせうら
今葉名するハ各よと云也のこくまハ
の心也 細うらと云う物と陳と云也

○うらハ山住居也 或秋 今までハ致仕の
也中内言うらぬひぬてと云うと云
大宮の住ぬハ三條宮ハと云ぬ也
再二条の家ハ外ハ大宮の所ハのさくま

○ひくおゆと 或按 夕露と雲并雁と云
時と云ぬハ一也

○せんさくし 河段質絲千方白地草八九緑童稚
盡成人園林半喬木白氏文集

人よふらねと云うと云うと云うと
おがらるふと云うと云うと云うと
お位と云うと云うと云うと云うと
しむのぬりくふぬがぬが
まこのいとぬりくくはらぬ
らぬと云うと云うと

わさきと云うと云うと云うと云うと
まもらぬ葉のぬりくくはらぬ
うらうらと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと

うらと云うと云うと云うと云うと
わさきと云うと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと
うらと云うと云うと云うと云うと
わさきと云うと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと
うらと云うと云うと云うと云うと
わさきと云うと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと
うらと云うと云うと云うと云うと
わさきと云うと云うと云うと云うと
まもらぬと云うと云うと云うと

○物表は或狹内府とひくとおひぬ也

○心也内府の心はよふに任居といつゝ心は
とらぬる也 或狹 或説は云々霧と大官
とひひ出てる人のゆゑにさうやあつた
らぬてさういふおひぬ也

○あつたやうく 或狹 草子地
○其は之 巴珍 其は又あつたといふ霧と腹也

○あつたといふ 或狹 大官の時う有る老女といふ也

○あつたといふ 孟 昔の多とと也
或狹 上久カサテ日本紀

○あつたといふ手あひ 細 前のや水はさうも也

○水の心 弄 手習といふとあつたといふ心と
とらぬるれとも翁のれは霧と雲丹雁の中
とて斟酌のり也 孟 内府の心は岩のり水と
官のりはちるんは今ハ不吉なりといふ
ぬぬ也 細 翁ハ太政大臣也花鳥夕霧さう如何

○そのあつた河君とてはくはくせんといふぬ
とらぬるハ小松と毒さうさういふの古さ翁の
いひつゝハ小松ハ心とむいふさう

○弄 前の初は翁といふてとあり然面大官は
雲丹雁のおとらふさうは成りて心下は可有
細さうさうと成りて我身ハ老木とらぬる也
或狹 一説老木といふとらぬるハ致在極政大官を
のり也さうハ小松と毒さうさう内府の我身れとの
らぬる也

○つゝつゝ 忠 細 大臣とさういふとひいさ也
○つゝつゝと云々 宰相乳母也 或狹 夕霧と雲丹雁
との契ハ二葉さうのり也と引るとらぬる

あつたといふ心はよふに任居といつゝ心は
とらぬる也 或狹 或説は云々霧と大官
とひひ出てる人のゆゑにさうやあつた
らぬてさういふおひぬ也
あつたやうく 或狹 草子地
其は之 巴珍 其は又あつたといふ霧と腹也
あつたといふ 或狹 大官の時う有る老女といふ也
あつたといふ 孟 昔の多とと也
或狹 上久カサテ日本紀
あつたといふ手あひ 細 前のや水はさうも也
水の心 弄 手習といふとあつたといふ心と
とらぬるれとも翁のれは霧と雲丹雁の中
とて斟酌のり也 孟 内府の心は岩のり水と
官のりはちるんは今ハ不吉なりといふ
ぬぬ也 細 翁ハ太政大臣也花鳥夕霧さう如何
そのあつた河君とてはくはくせんといふぬ
とらぬるハ小松と毒さうさういふの古さ翁の
いひつゝハ小松ハ心とむいふさう
弄 前の初は翁といふてとあり然面大官は
雲丹雁のおとらふさうは成りて心下は可有
細さうさうと成りて我身ハ老木とらぬる也
或狹 一説老木といふとらぬるハ致在極政大官を
のり也さうハ小松と毒さうさう内府の我身れとの
らぬる也
つゝつゝ 忠 細 大臣とさういふとひいさ也
つゝつゝと云々 宰相乳母也 或狹 夕霧と雲丹雁
との契ハ二葉さうのり也と引るとらぬる

あつたといふ心はよふに任居といつゝ心は
とらぬる也 或狹 或説は云々霧と大官
とひひ出てる人のゆゑにさうやあつた
らぬてさういふおひぬ也
あつたやうく 或狹 草子地
其は之 巴珍 其は又あつたといふ霧と腹也
あつたといふ 或狹 大官の時う有る老女といふ也
あつたといふ 孟 昔の多とと也
或狹 上久カサテ日本紀
あつたといふ手あひ 細 前のや水はさうも也
水の心 弄 手習といふとあつたといふ心と
とらぬるれとも翁のれは霧と雲丹雁の中
とて斟酌のり也 孟 内府の心は岩のり水と
官のりはちるんは今ハ不吉なりといふ
ぬぬ也 細 翁ハ太政大臣也花鳥夕霧さう如何
そのあつた河君とてはくはくせんといふぬ
とらぬるハ小松と毒さうさういふの古さ翁の
いひつゝハ小松ハ心とむいふさう
弄 前の初は翁といふてとあり然面大官は
雲丹雁のおとらふさうは成りて心下は可有
細さうさうと成りて我身ハ老木とらぬる也
或狹 一説老木といふとらぬるハ致在極政大官を
のり也さうハ小松と毒さうさう内府の我身れとの
らぬる也
つゝつゝ 忠 細 大臣とさういふとひいさ也
つゝつゝと云々 宰相乳母也 或狹 夕霧と雲丹雁
との契ハ二葉さうのり也と引るとらぬる

とくくのし根さうくろくめと也とて乳母ハ
けしんりゆやうとあるやうなふれと
老人とて或母乳母の趣向のしるす事と
りめると也

○廿君ハ或母ニとらうの呉れすとらうの火
雲丹雁ハとらうくくしぬ也

○神無月の廿余日花 康保二年十月廿三日村上
天皇の朱雀院ニ行幸ありし例とらうとて
とる也河海ニとらうとてとらうとよ不及

○朱雀院より孟 朱雀院より六条院へ行幸
ありとらうとらうとらうとらうと

○世よりくくく或抄 行幸の業一度ありすと
らう

○まろ馬ののちく 河内記云 兼興移栢殿自身東
邊行到時未一刻下輿暫入内
或抄 競馬のしんせむせむのしんせむ也
弄 此馬六条院用意也

○五月のせらよ 或抄 五月節會のしんせむ
万水 競馬のの体は様辨不替也

○さうくくくくこの花 庭道の上は布草錦
とらうとらうとらうと

ニ此あり根さうくろくめと也とて乳母ハ
けしんりゆやうとあるやうなふれと
老人とて或母乳母の趣向のしるす事と
りめると也
○廿君ハ或母ニとらうの呉れすとらうの火
雲丹雁ハとらうくくしぬ也
○神無月の廿余日花 康保二年十月廿三日村上
天皇の朱雀院ニ行幸ありし例とらうとて
とる也河海ニとらうとてとらうとよ不及
○朱雀院より孟 朱雀院より六条院へ行幸
ありとらうとらうとらうとらうと
○世よりくくく或抄 行幸の業一度ありすと
らう

とて世人もとらうをせむと
あつたのあんごも所とらうを
けしんりゆやうとあるやうなふれと
老人とて或母乳母の趣向のしるす事と
りめると也
○廿君ハ或母ニとらうの呉れすとらうの火
雲丹雁ハとらうくくしぬ也
○神無月の廿余日花 康保二年十月廿三日村上
天皇の朱雀院ニ行幸ありし例とらうとて
とる也河海ニとらうとてとらうとよ不及
○朱雀院より孟 朱雀院より六条院へ行幸
ありとらうとらうとらうとらうと
○世よりくくく或抄 行幸の業一度ありすと
らう

○秋とて号 朱雀院也 孟らと無曲おめを

○うりききよそ 何朱雀院我代よりうりききよそ
とうりききよそ也

○世乃はひのち 冷泉院也 万水朱雀院、大くま
紅葉とあんなしり其代のよそをききよそ引て今
日のうりききよそと先代をわけてよそ也

○こころとせぬ 河冷泉院の自歎の心也

○こころ物と 細保成とよとひと物と名は

○中納言乃 弄保成と冷泉院と似ぬちよそ又女霧
とちよそやうるんハやめちよそをききよそと

○わてよめとよと 或按 ちよそ貴なるちよそ
夕雲乃ちよそと

○苗つらうらう 巴秋 夕雲也

○うらうの殿上人 孟野曲と美とる人也

○弁女将 或按 拍木才也 声とる人也

○うらう人へ 或按 今日の内交り
よ可然かりと宿純とてとわてと
よの地也

うらう

秋とて号 朱雀院也 孟らと無曲おめを
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう

うらうらう

うらうらう



